



INTRODUCTION 「どこまでわかっているか」 復習編 13

- 1 顎堤吸収の進行により歯槽頂間線法則が不要に.....14
- 2 現代の人工歯の排列位置は(歯槽頂間線法則に代わるもの).....16
- 3 義歯の形が術者によって異なる理由は.....18
- 4 咬合力の支持域はどこか.....19

「まずは実践」のための 必修編

CHAPTER 1 総義歯の咬合採得は なぜ間違えるのか 23

1 義歯の安定を決めるのは咬合である24

- 1-1 力の大きさから咬合採得の重要性を理解する.....24
- 1-2 痛みの原因が咬合にある.....26

臨床ケース 1-1 新義歯装着後の経過が優れなかったのはなぜか?.....27

2 咬合床による咬合採得の困難さ29

- 2-1 不安定な義歯床下組織に維持、支持、安定を求めるため.....30
- 2-2 ろう堤の均等な軟化が難しく、上下顎ろう堤が面と面とで接触するため.....31
- 2-3 習慣性の咀嚼側寄りに下顎位が偏位しやすいため.....32
- 2-4 ろう堤の形態によっては神経筋機構を乱すため.....32

3 咬合床による問題を改善するために33

- 3-1 ろう堤を均等にかつ効率的に軟化する方法.....34
 - 1) 近遠心的な接触範囲を減じる.....34
 - 2) 下顎咬合堤の頬舌幅を狭くする.....35

臨床テクニック 下顎ろう堤の軟化方法：スパチュラは縦に.....36

- 3-2 デンチャースペースに適した咬合床は作れるのか.....37

Column 1 総義歯の難症例に半調節性咬合器は必要か?.....38

Check!! 着眼しよう

- 1 本当に重要なのは印象採得 or 咬合採得?.....25
- 2 なぜ、咬合に起因する痛みが生じるのか?.....28
- 3 なぜ、咬合床を使用した咬合採得は誤りやすいのか?.....29
- 4 咬合床の安定に多くは望めない.....33

CHAPTER 2 優先順位をつけて行う咬合採得 …… 39

1 重要な部分とそうでない部分を意識する……………	40
2 仮想咬合平面の決定……………	41
2-1 咬合平面は仮想である……………	41
臨床テクニック すばやく仮想咬合平面を決めるための使用中義歯の評価……………	42
臨床テクニック リップサポート決定の手順……………	42
2-2 咬合平面のチェックポイント……………	43
1)咬合平面の設定で問題となるのは？……………	43
2)上顎から決める場合にチェックする項目……………	45
3)下顎からのチェック項目……………	46
3 咬合高径(垂直的顎間関係)の決定……………	48
3-1 Zone として咬合高径を捉える……………	48
3-2 実際に使える咬合高径の決定法は……………	48
1)使用中義歯の評価……………	48
2)顔貌、口元のバランス……………	48
3)嚥下や発音に関する訴え……………	50
臨床テクニック 使用中義歯を利用した咬合高径の決定法……………	51
3-3 高すぎる咬合高径……………	53
臨床ケース 2-1 咬合高径は高すぎても低すぎても問題……………	53
4 水平的顎間関係の決定……………	56
4-1 求める下顎位はどこか……………	56
4-2 水平的顎間関係の妥当な決定法……………	56
5 標示線の記入と咬合器装着後の確認……………	59

Check!! 着眼しよう

1 咬合高径の決定法を整理しよう……………	49
2 水平的顎間関係の妥当な決定法とは……………	57



CHAPTER 3 この順序で進める咬合調整 —どこがだめで、どこを削るか— … 61

1	咬合調整を始める前に	62
2	咬合紙による咬合調整—基本の基本—	64
2-1	咬合紙の色に騙されない	64
2-2	咬合は口腔外で判断する	65
	臨床テクニック 口腔外で噛み合わせをチェックして削合部位を予測する	65
2-3	咬合紙は赤、青を入れ替えて	66
3	この順番とイメージで覚える咬合調整	67
3-1	中心咬合位でのリングライズドオクルージョンの達成	68
	臨床テクニック 5つのステップで削合部位を知る咬合調整の手順	68
3-2	側方運動時の作業側頬側咬頭の活用(作業側の咬合調整)	70
	1)側方運動時での犬歯のロックを解除	70
	2)作業側上顎頬側咬頭内斜面の調整	72
	3)作業側下顎舌側咬頭のチェック	73
3-3	平衡側の咬合調整	74
3-4	前方運動時の前歯部の咬合接触	74
3-5	最終確認	76
4	理論と現実の狭間で人工歯に求めるもの	79

Check!! 着眼しよう

- 1 「フルバランス様リングライズドオクルージョン」とは … 63
- 2 咬合調整はこの順番で行えば OK … 67

「あれっどうして？ なぜなんだろう？」
迷った時に立ち返る基礎・学術編

**CHAPTER 1 現代の総義歯に付与すべき
咬合様式 …………… 83**

1 両側性平衡咬合(Balanced Occlusion)は必要か……………84	
1-1 両側性平衡咬合の必要性への疑問……………84	
1-2 両側性平衡咬合の必要性に対する疑問への答え……………85	
2 フルバランストオクルージョンか、リングライズドオクルージョンか…88	
2-1 フルバランストオクルージョンとリングライズドオクルージョンの比較…88	
1)対応しやすさの違い……………88	
2)“おいしさ”の違い……………90	
3)側方ガイドによる違い……………92	
4)結論……………92	
3 フルバランス様リングライズドオクルージョンという提案……………93	
3-1 フルバランス様リングライズドオクルージョンとは……………93	
4 無咬頭歯、“どこでも噛める”はどこでも噛めない……………95	
5 人工歯の材質……………96	
臨床ケース 1-1 硬質レジン歯でも咬耗は起こる……………96	
Column 2 フレンジテクニックは試す価値があるか……………98	

Check!! 着眼しよう

1 咬合接触からみえる咀嚼時の義歯のダイナミックな動き……………87	
2 総義歯の咬合様式……………89	
3 咬合様式のいいところ取り！……………94	

「もう一段上を目指す」ための **エキスパート編**

CHAPTER 1 咬合と審美の精度を高める試適 …… 121

1	咬合のチェックの進め方……………	122
2	無歯顎者の下顎誘導法……………	125
3	下顎誘導のテクニック……………	126
	臨床テクニック 総義歯での下顎誘導法……………	126
	臨床テクニック 右手の示指による下顎のコントロール……………	128
4	中心咬合位でのチェックバイト……………	129
	臨床テクニック パラフィンワックスによるチェックバイト 「すぐ開いて」……………	131
	臨床ケース 1-1 上下顎後縁の位置のズレから下顎の偏位に気づき修正した症例……………	132
5	チェックバイト後の咬合器再装着……………	133
	臨床テクニック チェックバイト後の人工歯再排列……………	134
6	咬座印象、咬合圧印象という修正……………	136
	臨床ケース 1-2 使用中義歯の動揺に対して、ティッシュコンディショナーで一時的対応を行った症例……………	138
7	審美性のチェック……………	139
	7-1 審美性は時代に合わせて……………	139
	7-2 前歯部排列をモディファイするには……………	141
	7-3 義歯床の色調……………	143

Check!! 着眼しよう

1	チェックバイトでは、上下顎人工歯を咬合接触させない……………	129
2	前歯部と臼歯部では開閉口による影響は異なる……………	135
3	咬座印象は咬合のズレを粘膜面で補正する術式……………	137
4	歯頸線の位置でイメージが異なる……………	140
5	正中線のズレと切縁の傾きでは、気づかれやすさが違う……………	142



CHAPTER 2 印象と咬合で攻める フラビーガムへの戦略 …………… 145

1	フラビーガムでは何が問題か……………	146
	臨床ケース 2-1 脱落が改善しないフラビーガム症例……………	147
2	フラビーガムは無圧で……………	149
	臨床テクニック 開窓の個人トレーを使った無圧印象の2回法……………	150
3	フラビーガムは咬合で解決……………	152
4	フラビーガムにゴシックアーチを用いるという失敗……………	154
5	咬合させてリラインで対応するという失敗……………	156
6	フラビーガムはどうすべきか? ……………	158
7	粘膜面の調整……………	160
	臨床テクニック フラビーガム部の粘膜調整のポイント……………	160
8	フラビーガム難症例から学ぶ……………	161
	臨床ケース 2-2 フラビーガムを有する著しい下顎前突症例……………	161
Column 4	総義歯分野での口腔内スキャナーの活用は……………	164

Check!! 着眼しよう

1	前歯部顎堤の口蓋側が二次圧負担域にならない……………	148
2	大白歯で嚙ませれば外れない……………	152
3	記録装置の動揺が大きい症例ではゴシックアーチ描記は無意味……………	155
4	フラビーガムで咬合させてのリラインは痛みのもと……………	156
5	第一大白歯部だけで咬合力を支持させるようにする……………	158

CHAPTER 3 訪問診療で活かす義歯の知恵 …… 165

- 1 訪問でどう義歯に対応するか……………166
 - 1-1 75歳でよい義歯を入れておく……………166
 - 1-2 訪問で出会う義歯の多くはだめな義歯？……………166
 - 1-3 義歯ができるのは歯科医師だけ！……………166
 - 1-4 訪問では、“嚙める=食べられる”ではない……………168

- 2 訪問では、咀嚼と嚥下は一連で捉える……………169
 - 2-1 咀嚼と嚥下は一連の運動である……………169
 - 2-2 食物の認知：咀嚼の必要性は前歯部で判断する……………170
 - 2-3 咀嚼と食塊形成：義歯で口腔内の食塊コントロールを改善する……………170
 - 2-4 嚥下：嚥下時に舌は義歯をアンカーにする……………173
 - 2-5 訪問では高すぎる咬合高径は絶対ダメ……………174
 - 2-6 下げられなければ、足す……………174

- 臨床テクニック PAPの製作方法……………176

- 3 訪問での義歯製作のポイント……………177
 - 3-1 だめな義歯は少しずつ変える……………177
 - 3-2 印象法はなんでもよい……………178
 - 3-3 下顎位は時には「エイヤっ」と決める……………179

Check!! 着眼しよう

- 1 外来でのよい義歯が訪問でのよい義歯につながる……………167
- 2 咀嚼と嚥下はギブアンドテイク……………169
- 3 嚥下しやすい食塊の条件とは……………172